

住宅用火災警報器の奏功事例



“付けて安心”
住宅用火災警報器

住宅用火災警報器（住警器）を設置していたことで、大事にならずにすんだ事例が数多くあります。

その中から一部ではありますが、総務省消防庁に寄せられた事例を紹介します。

事例 1	居住者が2階で就寝中、 寝室に設置の住警器が鳴動 し、1階の物置部屋から炎が出ているのを発見した。炎の勢いが激しいため初期消火は断念し、119番通報した。
------	--

事例 2	居住者が2階で就寝中、 1階居間に設置の住警器の鳴動 に気づいた。階段を下り居間の戸を開けたところ、煙が噴出したため、直ちに就寝中の家族に火災を知らせ、水道ホースを使用して初期消火を行うと伴に、駆けつけた近隣住民に119番通報を依頼した。
------	--

事例 3	居住者が石油ストーブのタイマーをセットし就寝したところ、 居間に設置の住警器の鳴動 で目が覚め、石油ストーブの上に洗濯物が落下し炎上しているのを発見した。石油ストーブのスイッチを切り、屋外に出て携帯電話で119番通報した。
------	--

事例 4	居住者がこんろを使用中に寝室で就寝してしまい、グリルから出火。 寝室に設置の住警器の鳴動 に気付いた居住者がすぐに消火して大事に至らなかった。
------	--

事例 5	居住者が2階で就寝中、寝具がヒーターに接触して出火した。 寝室に設置の住警器の鳴動 により目覚め、階段を下りて玄関から避難した。火傷を負ったが命に別状はなかった。
------	--

事例 6	共同住宅2階の居住者（女性）が台所で調理中に意識消失したため、ガスコンロにかけてあった鍋の具材が焼け焦げて発煙した。 居室に設置してあった住警器が作動 したので、下階にいた住人が警報音に気付き、確認に行ったところ換気扇から煙が出ていたため119番通報をした。
------	--

事例 7	ガスコンロのグリルで餅を焼いた後、火を消し忘れたため、グリルの受け皿に残っていた油粕に着火した。孫が、台所から 「火事です。火事です。」 という警報音が聞こえると祖母に伝えた。祖母が台所に行くと、ガスコンロのグリルの排気口から炎が出ていたため、そばに置いてあったスプレー式の消火器を使って消火し、119番通報をした。
------	---

事例 8	併用住宅の居間に設置してあるテレビコンセント差込口のトラッキングにより発火。 就寝中の家人が、住警器が鳴動しているのに気付き 、寝室に煙が漂っていたので、火事だと思い消防署へ通報した。その後、家人が消火器による初期消火を行い鎮火した。
------	--

事例 9	小学生の男子が、居間のこたつで宿題を終えた後、隣の部屋にいたところ、 居間より住警器の警報音が聞こえてきた 。確認すると、器具コードの短絡によりこたつ布団が燃えていた。男子は、お風呂の残り湯を洗面器に汲み、燃えているこたつ布団にかけ初期消火を行うとともに119番通報した。
------	---

事例 10	家人が寝たばこにより焦がした座布団をゴミ袋に入れ、台所に放置した。就寝中に、 居室内に設置している住警器の警報音に気付き 、座布団が燃えているのを発見した。ペットボトルに汲んだ水道水をかけ、初期消火した。
-------	---

事例 11	共同住宅の2階に居住する40代の男性が、鍋のおでんを温めるためにガスコンロに火を付け、消し忘れたまま出勤した。 隣人が、「ピーピー」という住警器の警報音に気付き 、屋外廊下に出てみると焦げ臭いにおいのがしたので知らせようとしたが、居住者が不在だったため不動産管理者に連絡した。駆け付けた不動産管理者が119番通報し、マスターキーで中に入ると居間の住警器が作動しており、鍋内のおでんが焦げていた。
-------	--

事例 12	<p>居住者は、住警器の音声により目が覚め、部屋に煙が充満し、窓際のカーテンが燃えているのに気付いた（子供がライターで遊んでいたところカーテンに着火し、延焼拡大したもの。）。慌てて子供の手を引き屋外に避難することができた。</p>
事例 13	<p>居住者が居間の卓上コンロで調理中、飲酒で寝込んでしまったため、時間の経過とともに発煙し、居間の住警器が警報音を発した。ひどく酒に酔っていたため居住者本人は気付かなかったが、隣室の住人が119番通報。屋内進入した消防隊がコンロの火を消したため、鍋内を焦がしただけで建物の焼損はなかった。</p>
事例 14	<p>自宅でテレビを見ていたところ、外から住警器の警報音が聞こえた。外に出てみると、隣家の台所から白煙が出ているのを発見した。居住者は留守であったため、119番通報するとともに、施錠されていなかった勝手口より台所に入り、ガスこんろの火を止めた。</p>
事例 15	<p>外出先で近隣の建物から住警器の警報音が聞こえたため、建物内に入り2階階段踊り場で倒れていた居住者を発見した。居住者を抱きかかえて室外に搬送し、消防隊及び救急隊に引き継いだ。</p>
事例 16	<p>共同住宅に住む女性が、仏壇のローソクに火を着けて拝んでいるうちに気分が悪くなり、意識を失い倒れてしまった。その間にローソクが転倒・落下し火が周囲に燃え移った。仏間に設置されていた住警器が発報し、警報音で意識を取り戻した女性が火災に気付き初期消火した。</p>
事例 17	<p>共同住宅の居住者（独居老人）が2階で鍋をコンロにかけたまま放置したため、居間に設置してあった住警器が鳴動し、緊急通報システムにより119番通報され、指令センターの係員の指導でガスコックを閉めた。</p>
事例 18	<p>居住者の男性（30歳代）は就寝中、警報音で目を覚ました。男性は、煙の場所を確認したところ、台所の冷蔵庫の裏側から火が出ていたので「火事だ」と叫んだ。別棟のアパートの居住者女性（60歳代）は、男声の叫び声を聞き付け外を見ると、北側の建物から白煙が出ていたので携帯電話で119番に通報した。</p>